

V 戦士

徳島県バレーボール協会中学校専門部 バレー便り 2017年秋季 第48号

城南高校女子バレー部インターハイ 堂々の3位

私は昨年のインターハイに続き、今年もとても楽しんでバレーをすることができました。どんなに相手が強くても、最初から諦めるのではない。いつも挑戦者の気持ちを忘れずにプレーすることで、本来自分たちが持つ最高のバレーができることを学びました。私たちは身長が小さい分、レシーブに集中し、とにかく「コートにボールを落とさない方が勝つ」と声を掛け合っていました。改めてレシーブの大切さを感じました。

全国で3位という結果を残せたことはとても嬉しいことです。しかし、ここで満足せず、これからもさらに上を目指して頑張りたいと思います。

城南高校3年 主将 森本二似奈

上八万中学校卒

城南旋風再び
守備力の高さで
昨年を上回った

女子ベスト4
城南(徳島)

誠英(山口) 2 [16-25, 25-13] 0 城南(徳島)

【小牧監督をベスト4に連れていきたかったんです】と選手たちは口をそろえた

昨年のインターハイでは、チーム史上最高成績のベスト8。進々決勝で、セットを奪うなど、その戦いぶりは目をみはるものがあった。あれから1年、城南が敗者復活戦から積み重ねた勝ち星は5つ。今年は、ベスト4進出だ。決勝トーナメントでは八王子実践や金沢商大、コートに立つメンバーの平均身長差が10cm近くあるチームとの戦いが続いた。その相手の高さに対し、プロフックとレシーブの関係性をしっかりと構築して応戦。フルセットの戦いを制して、勝ち上がった。

県内随一の進学校で、ふだんの練習は2時間程度。週末は模試を優先する。「文武両道、胸を張って言えます」と小牧康二監督は明言する。

主将の森本二似奈は「ボールを落とさなければ、勝つ。シンプルであり、しかし、それが難しいのだが、今回の戦いぶりは、説得力がある。今回の進学に向けて3年生が引退するのが例年の形だったが、今年はメンバーも残り、団体と香高の戦いを見送える。城南旋風はまたもまた続きそうだ。



チームは“アタマを使って”強くなる!!

LESSON 12
このチームに学べ! 特別編

城南高 [徳島]

県内屈指の進学校であり、平日の部活動の時間は実質2時間。週末は模試があれば、そちらが優先。そんなチームがこの夏、全国の舞台上で最終日まで勝ち上がりました。今回は、インターハイベスト4に輝いた城南高(徳島)にフォーカス。短い練習時間で成果をあげた、その舞台裏には“アタマを使う”バレーボールがありました。

取材/坂口功将(編集部)



小牧康一郎 監督

1961年2月8日生まれ。富岡西高→順天堂大。2015年から城南高女子バレーボール部を指揮する。教科は保健体育。

監督に聞く

城南高女子バレーボール部は いかにして勝利するのか

主力選手の平均身長は166cm
10cm以上高いチームを倒した

——夏のインターハイではベスト4。昨年のベスト8を超える戦いぶりでした。これ以上ない、大会でした。大会前に手応えはあったんです。サイズは小さいし、スキがあったら県内でも負けると常に言ってきた。コツコツ取り組もうちに、ブロックもワンタッチを取れるようになりました。県予選決勝でも相手のサーブミスをおに抑えたり、と。選手たちが気持ちを出せるようになっていましたね。

——特に決勝トーナメントからは、身長の高い相手との対戦が続きました。とにかく全国大会は相手のブロックが高いから、無理して思いっきり打ってもシャットされてしまう。ブロックに当ててリバウンドを拾うなり、難しかったらフェイントやブッシュに切り替えるんだ、相手ブロックが割れるまでガマンするんだ、と。それが彼女たちの頭の中にはあったので、ブロックシャットはほとんどなく、相手にとっては嫌だったと思いますよ。

——レシーブに関しても、よく拾っています。



1875年創立。徳島県で最も古い歴史を持つ。文部科学省よりSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されるなど、高い進学率を誇る。女子バレーボール部は1928年に創部され、昨年のインターハイでは快進撃を演じ、ベスト8進出。今年はベスト4入りを果たした。

平成29年度全国高等学校総合体育大会 女子バレーボール競技大会
決勝トーナメント 競技記録



平成29年7月30日(土)～8月1日(火)

競技委員長
深谷智弘

